

令和2年度学校評価計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢向陽高等学校

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
1 規範意識を高め、挨拶の励行、清楚な服装容疑、遅刻・欠席の減少等、基本的な生活習慣の確立した生徒を育てる。	① 遅刻の防止 全職員による登校指導や頻回者への意識改革指導を通して、基本的な生活習慣を確立する。	遅刻者が1日に A 4人以下 B 6人以下 C 8人以下 D 10人以上 昨年度 3.4人	A 2.9人	昨年度に比べると0.5ポイント下がり、3人以下となった。今後も早朝遅刻指導等を継続するとともに、3年生の進路決定後の遅刻を減らし、全体の遅刻者の減少に努めていきたい。
	② 欠席の防止 きめ細かな指導や保護者との連携等により、欠席を減らし、学習意欲の向上を図る。	欠席者が1日に A 10人未満 B 20人以下 C 30人以下 D 31人以上 昨年度 12.8人	A 4.7人	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から例年と欠席の扱いが異なったことが、数値改善の要因であることは否めないが、今後も、保護者との連携を密に行い、生徒の欠席数減少に努めていきたい。
	③ 決められたルール（校則等）をしっかりと守る。	私は校則等のルールをしっかりと守っている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない 昨年度 91%	A+B 89%	例年約10%の生徒がルールを守れていないと回答しており、これらの生徒の意識をいかに向上させるかが鍵である。今後は、校則だけでなく、あらゆる場面で、実社会で必要とされるマナーや規範意識と結びつけて指導していくことで、生徒の意識向上を図りたい。
	④ 個人面談を充実させ、生徒の様子を観察し、いじめ等の問題に相談室、学年、生徒課を中心に全職員で連携しながら迅速に対応する。	各課、学年が連携をとりいじめ等の問題を抱えた生徒の早期把握と対策がとれている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない 昨年度 83%	A+B 88%	本校生徒は、大勢の前では口数が少ない生徒が多いが、少人数や1対1の場面では思っていることを話す傾向にある。このような生徒の状態を正確に把握するには、個人面談が有効と思われる。今後とも年間を通して計画的な個人面談を行い、生徒の様子的確な把握に努めていく。
学校関係者評価委員会の評価	・遅刻については減少しており、欠席についても大幅に減少しているのは良いことだと思われる。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・今年度は新型コロナウイルス感染症への対応として、多くの教員が登校時に玄関で生徒を迎えるなどしたため、安易な遅刻が減少したと思われるので、今後も継続していきたい。また、欠席に関しては、発熱等がある場合は出席停止措置となったため大幅な減少となったと考えている。今年度は新型コロナウイルス感染症への対応もあり欠席・遅刻が減少したが、今後とも生徒の健康状態には気を配るとともに、日常生活を規則正しく出来る生徒の育成を目指していきたい。			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
2 落ち着いた学習環境のもと、ICTを活用した授業やA・L型の授業実践等を行うことで、学習意欲と基礎学力の向上を目指し進路実現を図る。	① 課題提出や授業の復習予習を促し、家庭学習の習慣化を図る。	授業以外の学習時間が「60分以上」の生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 昨年度 37%	C 61%	昨年度に比べると24ポイントアップしたが、まだ61%の生徒しか学習時間60以上を達成できていない。本校の最重要課題である学習時間の確保について、各教科で習熟度別課題などの改善策を検討していきたい。
	② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。	授業を理解できるとする生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 昨年度 70%	C 65%	授業が理解できるとする生徒の割合は昨年と比べて5%ポイントダウンした。この結果を真摯に受け止め、授業展開の工夫やICT機器を有効活用するなど、不断の授業改善に、より一層取り組んでいかなければならない。
	③ 3年生の進学希望者に対し、個々に応じた指導を実践し、進路実現を図る。	第1志望校への進学が実現した生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 昨年度 90%	A 90%	第1志望校への進学が実現できたのは、小論文や面接などの個別学習を中心とした受験準備が整ってきたためであると考えている。今後とも、生徒に対する早期からの学習指導支援体制の確立を進めていきたい。
	④ 3年生の就職希望者全員の就職内定100%を目指す。	就職内定率が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 80%未満 昨年度 93%	A 100%	今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されたが高い内定率となった。来年度も、広範囲な情報収集に努め、計画的に指導を行い社会人としての意識改革を図り、就職内定率の向上を目指したい。
	⑤ 総合的な学習の時間やホームルーム活動、学校行事、日々の授業を通してキャリア教育を推進する。	キャリア教育に関する行事についてのアンケートで、肯定的な結果が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 昨年度 73%	B 78%	3年間を見通したキャリア教育を実施し、それをキャリアプラン・金沢学発表会につなげている。今後は、それらの取り組みを自分自身に関係することとして受け止め、受動的・消極的にならず、自ら考え、行動する積極的な姿勢を育んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習については、将来、社会人となり職場においても役立つと思われるので、もう少し毎日の宿題等を増やしても良いのではないかと。 進学では、3年連続で国公立に進学（今年度2名）しており、また、就職内定率においても今年度は100%となっているなど、頑張っている様子が窺える。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> 課題等は主に定期試験前に配布しており、今後は各個人の実態に合わせた課題等も配布していきたい。 将来の目標について、1年次から進路説明会を実施しており、進学について早い段階から対応できるようになってきた。 			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
3 全員加入による部活動の一層の活性化を推進し、心豊かな人間性と社会性を身につけた人材を育成する。	① 新入生全員が部活動に加入するよう指導し、かつ継続的なものにするため、中途退部者に対しても、面談等を通して他の部活動への再入部を強く勧めていく。	1・2年生の部加入率が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 昨年度 82%	A 78%	1年生に対しては、入学時に部活動への加入を進めたので加入率が高くなり、特に、女子生徒の文化部への加入人数が増加した。しかし、折角入部した部活動を途中で退部する生徒が増えてきており今後の課題となっている。
	② 積極的に部活動の指導に携わり、学校の活性化に寄与していく。さらに、部活動の指導力向上にも務める。	部活動の指導について 昨年度 77% A 積極的に支援し指導している B 概ね支援し指導している C あまり支援せず指導していない D 殆ど支援せず指導していない	A+B 70%	今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、部活動を指導する期間が減少したが、今後も、生徒が充実した学校生活を送れるように、教職員が積極的な部活動の指導を実施し、学校の活性化を図りたい。
学校関係者評価委員会の評価		・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、インターハイ等の全国大会が開催されず県内の大会もなくなったので、生徒にとっては大変残念な年度となったが、今後も頑張ってほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		・今年度はインターハイや国体等の全国対が中止されたが、3月の選抜大会から開催が予定されており、本校は女子バドミントン部が出場する。今後は県内の大会も開催される予定であり、他の部活動も積極的に支援し指導していきたい。		

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
4 生徒のボランティア活動や学校開放及び情報発信などの地域交流を通して、保護者や地域に信頼され評価される学校づくりを行う。	① ホームページの更新を分掌ごとに行うとともに、学年だより等による情報発信も行う。	保護者がホームページを定期的に関覧する。 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 昨年度 30%	C 47%	昨年度に比べ、保護者の閲覧回数が大幅にポイントアップしたのは、新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと考えられる。今後も、学校行事等の紹介や各部活動の大会成績などの情報を、迅速に発信しなければならない。
	② 福祉施設訪問やボランティア活動の実施などを通して、地域との交流に積極的に取り組んでいく。	ボランティア活動など地域との交流に関する事業に A 積極的に参加している B 充分とはいえないが、おおむね参加している C あまり参加していない D 全く参加していない 昨年度 60%	A+B 43%	今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、吹奏楽部の湖陽町会夏祭り、JRC部の24時間テレビでの募金活動、生徒会中心の金沢マラソンの給水ボランティア等に参加出来なくなり、ポイントが大幅にダウンした。来年度は、感染症の収束を願い、出来る限りボランティア活動に取り組みたい。

	③	図書館を開放し学校と地域住民の交流を促進する。	地域住民が図書館の行事に参加する数が A 100人以上 B 70人以上 C 40人以上 D 40人未満 昨年度130人	D 31人	近年は参加数が年々増加していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、長期間来校禁止となり、ポイントが大幅にダウンした。今後も地域の読書センターとして、多くの愛好家に利用してもらうようにしていきたい。
	④	指導に関する情報交換や学校行事への参加等を通じて、保護者との連携を深め、保護者の学校への信頼を高める。	学校の指導に対する保護者の満足度が A 85%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満 昨年度 85%	A 87%	過去4年間とも保護者の本校に対する満足度は80%を超えている。今後もホームページ・メール配信や学年通信を活用し、学校の教育活動について随時情報を提供し連携を深めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページについて保護者の閲覧回数が増加しているようである。学校行事や部活動の記録などのニュースを、なお一層、積極的に記載してほしい。 ・今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、夏まつりが中止となり吹奏楽部が参加できなかったが、来年は参加してほしい。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの閲覧回数は昨年度に比べ約70万回増加している。今後は、最新のニュースを掲載するなどホームページの内容を充実させ学校をアピールしていきたい。 ・吹奏楽部は部員数が少なくなったが、来年からも地域の行事に積極的に参加していきたい。 			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
5 生徒・保護者・地域の理解を得ながら、組織的で効率的な業務に努め、教職員の多忙化改善に取り組む。	① 教職員の勤務時間調査を継続するとともに、働き方改革に対する意識の向上を目指す。	働き方改革を意識し、時間外勤務短縮に努めている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない 昨年度 80%	A+B 72%	今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な全国大会等の中止や、多くの学校行事が変更になるなど、例年とは異なる業務が数多くあったが、各自がワークライフバランスを考慮し、時間外勤務の短縮に努めた。年間を通しては、時間外の勤務時間は昨年度に比べて縮小しており、今後も働き方改革の意識の向上に努めたい。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、教職員の勤務時間が増加していることはないのか。また、部活動においては年間を通じての休養日を確保しているのか。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は新型コロナウイルス感染症への対応において、勤務時間を考慮しながら課題配布等で様々な工夫をしている。また、部活動においては、1年間を通して定められた休養日を取得するように指導している。 		